

南アフリカ為替週報

2021年10月21日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去1週間の動き>

(10月14日～10月20日)

USD/ZAR: 14.3600～14.8300

ZAR/JPY: 7.65～7.95 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、対ドルで、予想外に一方的な上昇。近い時間帯に取引される新興市場通貨の中には、ロシア・ルーブル、メキシコ・ペソなどのように、ランドと並行して明確に上昇した通貨もあれば、ブラジル・リアル、トルコ・リラなどのように、むしろ軟調に推移した通貨もあったが、ランドに特段の上昇要因があったようには思われなかった。金融市場全般では、米長期金利の断続的な上昇が注目を集めたが、円を除く主要通貨や上述(ランドを含む)一部新興市場通貨などに対して、ドルはむしろ軟調推移を支配的とした。南ア固有の要因では、①18日、ヨハネスブルク証券取引所が今般新規に発表した、非居住者による南ア国債取引実績データが、当該日次データ(年初来990億ランドの純流出)とは対称的に年初来219億ランドの純流入(～10月8日)を示したこと②南ア9月CPI(下記)が、市場予想に沿った内容ながら、前月の前年比+4.9%から同+5.0%に上昇したことなどが注目を集めた。敢えて材料視するならば、いずれもランド押し上げ要因と読めたはずで、18日以降のランド堅調の追い風になった可能性は考えられた。米長期金利上昇と並行して、南ア長期金利も上昇が先行したものの、おそらく、①の発表を受けて反落。南アの場合、長期金利上昇は、国債売り=価格下落との読みで、ランド売り要因と読まれる傾向の方が強いが、こちらの目線からも、18日以降のランド押し上げ要因の一翼を担ったと考えることはできたはずだ。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
10/20	8:00	CPI(前年比)	9月	+5.0%	+5.0%	+4.9%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

(10月21日～10月27日)

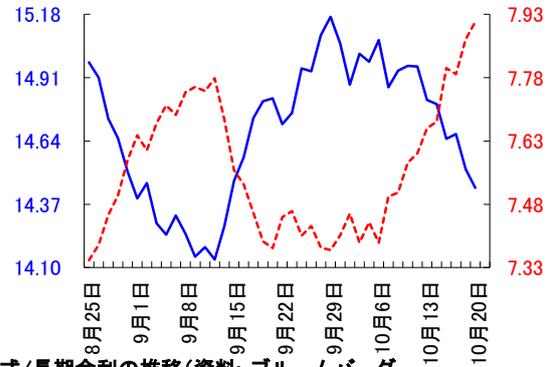
USD/ZAR: 14.200～14.600

ZAR/JPY: 7.85～8.05

向こう1週間の南ア・ランド相場は、上値の重い膠着を中心に見込む。敢えて選ぶならば、軟調よりは、堅調を予想する。南ア9月CPIは、小幅上伸したものの、上述の通り、市場予想に沿った内容、かつ、南ア準備銀の物価誘導目標(+3～6%)の枠内に余裕で収まる水準で、同指数の発表を受け、同銀による利上げ期待は些か後退した感がある。南アの場合、利上げ期待は、必ずしも通貨押し上げ要因ではなく、上述の通り、国債利回り上昇(価格は下落)要因として、むしろ、ランド売り要因と読まれる傾向の方が強い。目先のランド堅調を見込むのは、南ア準備銀による早期利上げ観測の後退に負うところが大きい。膠着を中心に見込むのは、11月1日に統一地方選、2日に中期予算政策声明(MTBPS)の発表という注目材料を控え、市場の様子見気分が強まる可能性を見込むから。コロナ禍による景気低迷(ワクチン接種の遅滞)、7月の暴動などの影響で、(ラマポーザ大統領率いる)与党アフリカ民族会議(ANC)が、(前回2016年との比較で)いくらか得票率/当選者数を減らす可能性が見込まれているが、余程の大敗でも喫しない限り、ラマポーザ大統領/党首の党内基盤の安定には、ほとんど影響ないというのが、事前予想の中心的な見立てか。8月のムボウェニ前財務相辞任、ゴドングワナ財務相就任後、新財務相の初の晴れ舞台となるはずのMTBPSだが、現在までに、観測気球的な政策内容はほとんど聞こえてきていない。貿易/経常収支の改善(=交易条件の改善)を追い風とした歳入(税収)上振れが、財政動向の改善を示すことが期待されているが、この点は既に概ね織り込み済みと言える。起業条件の簡素化や投資支援、中小企業向け支援といった地道な政策の発表が見込まれている。ランド反落要因としては、ひとつ警戒されるのは、18日に発表された非居住者投資家による南ア国債投資データの影響。「より正確なデータ」との触れ込みではあるものの、一夜にして、非居住者が大量の南ア国債を新規購入したわけでは勿論ないわけで、それが少なからず足下ランド堅調を演出していたのだとしたら、その反動は警戒されよう。

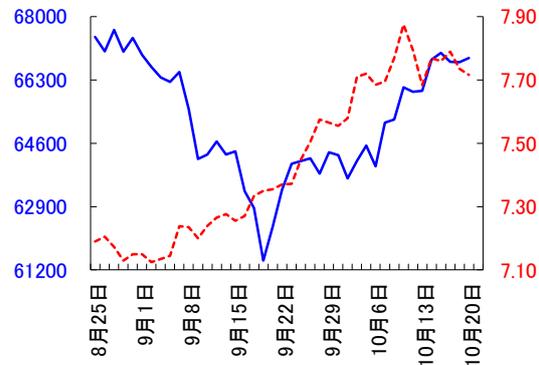
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸:対米ドル、点線/右軸:対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸:JSE全株、点線/右軸:10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レポ金利)		3.50%
長期金利(10年スワップ)	10月20日	7.717
株価指数(JSE全株)	10月20日	66894.79
成長率(GDP/前年比)	Q2	+19.3%
経常収支(ZAR)	Q2	+343bn
失業率	Q2	34.4%
消費者物価(前年比)	9月	+5.0%
小売売上高(前年比)	8月	-1.3%
製造業生産(前年比)	8月	+1.8%
鉱業生産(前年比)	8月	+2.0%
貿易収支(ZAR)	8月	+42.4bn
金価格(ロンドン 17:00)	10月20日	1783.37

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。